

古河文化見聞録

お代官様！は本当に悪役ですか？

お代官様は悪役？

「お代官様！」といえば、時代劇における勸善懲悪のイメージが強くありませんか？

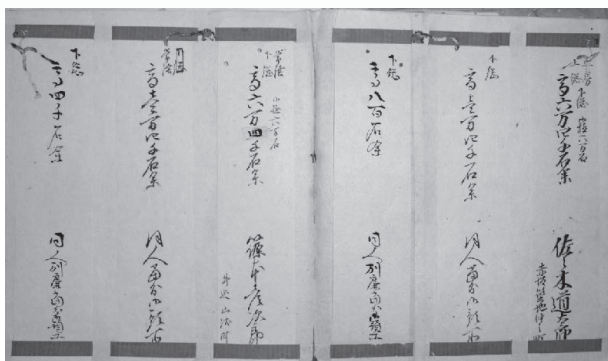
法外な年貢をかけ、無理難題の圧政で領民を虐げ、「ぶうわあっはあはあはあ……おぬしもオ、なかなかのワルよのオウ～～」と商人から山吹色の小判を受け取る悪代官。

そもそも、実際のお代官様は、本当に悪役だったのでしょうか。

農政スペシャリストや学者もいた代官は出世の登竜門

代官とは、江戸幕府の役職の一つで、全国に散在する幕府直轄地(天領)を支配して、年貢の徴収、水利植林・農村復興・農民救済などの農政、公事などの司法検察を司った遠国役人(地方官)です。そのため、転勤が多い転勤族でもありました。定員はなく、江戸時代中期・後期には、ほぼ40名台で推移。

支配地には、役所である陣屋(代官所)が設けられ赴任しましたが、関東筋代官は、原則、



▲「御代官御預所高国所附」(長左工門新田福田家文書)

支配地に陣屋を置かず、江戸の自邸を役所に改築して在陣(常駐)しました。代官の配下には、代官が個人で採用した手代、幕臣から出役してきた手附などがいましたが、何万石という大名並みの領地を支配するには、極めて少ない人員数のため、優秀な人材の発掘、登用が不可欠でした。

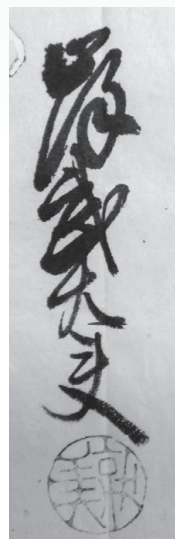
また代官自身、職制上は勘定奉行の支配を受け、身分・家格は低いですが、高いスキルが求められ、また出世コースの登竜門であったため、有能な人物が多かった役職でもあります。

機構改革と代官の変容

寛政の改革は、代官の世界に変革をもたらしました。農村復興策に農政の重点を置くために、関東筋代官では、新たに下野国藤岡(現：栃木県栃木市)、上野国岩鼻(現：群馬県高崎市)などに陣屋が築かれ、代官が在地に常駐する政策が試みられます。

人事面でも、それまでの代官と異なり、正式な代官任命を経ず、支配勘定と言った勘定所(財政を司る役所)の職員身分のまま、代官職を担当させる政策や、代官配下の元締手代(手代の長)の幕臣登用および下級幕臣の手附出役(代官配下へ出向・配属)も行われます。

支配勘定格の身分のまま、藤岡陣屋に赴任、現在の三和地区の諸川町・



▲「岸本武太夫署名と押印部分」(諸川中村家文書)